

レオン油土 S, H, D

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名称 レオン油土 S,H,D  
会社名 瀬戸製土株式会社  
住所 愛知県瀬戸市孫田町 49  
担当部門 製造部  
TEL 0561-82-3706 FAX 0561-83-8825

整理番号 101007-1 作成・改定日 2010年10月7日

2. 危険有害性の要約

(配合物全てについて記載し、分類できない・区分外・該当しないは記載略)

GHS 分類

物理化学的危険性: 分類できない  
健康有害性: ①ワックス 眼に対する重篤な損傷・眼 区分 2B  
                  特定標的臓器・全身毒性 区分 3(気道刺激性)  
②潤滑油基油 急性毒性(吸入一粉塵・ミスト) 区分 4(感嘆符)  
                  皮膚腐食/刺激性 区分 3(シンボルなし)  
                  眼に対する重篤な損傷・眼 区分 2B  
                  生殖細胞変異原性 区分 2(健康有害性)  
                  特定標的臓器・全身毒性 区分 2・区分1(肺、健康有害性)  
③ステアリン酸 分類対象外  
④粘土 分類対象外

DPD ラベル要素



(上記②の潤滑油基油のみ適用)

注意喚起語	<警告>	<危険>
	眼刺激	吸入すると有害
	呼吸器への刺激のおそれ	軽度の皮膚刺激
		遺伝性疾患の障害のおそれ
		臓器(肺)の障害のおそれ
		長期・反復暴露による臓器(肺)の障害

## 注意書き

### 「予防策」

- ・全ての安全注意(MSDS 等)を読み理解すること
- ・熱、火花、高温体等の着火源から遠ざけること
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器、火花の出ない工具を使用
- ・静電気に対する予防措置を講ずる
- ・保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用
- ・粉塵、ヒューム、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避ける。飲み込まない。
- ・換気の良い場所で使用
- ・取り扱い後はよく手を洗う事
- ・環境への放出を避ける

### 「対応」

- ・火災の場合は、粉末、泡又は炭酸ガス消火器を使用
- ・皮膚(又は髪)に付着した場合は大量の水と石鹼で洗う事
- ・皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断手当を受ける
- ・眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗う事。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の手当を受ける事。
- ・暴露或いは暴露の懸念がある、又は気分が悪い場合は医師の診断・手当を受けること。
- ・吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させる。
- ・飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせない。
- ・医師の診断が必要な場合は、製品・容器又はラベルを手元に用意

### 「保管」

- ・直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管
- ・密閉して保管すること
- ・子供の手の届かない場所に保管すること

### 「廃棄」

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄業者に廃棄を委託する(不明な場合は購入先に相談の上処理すること)

## 3. 組成・成分情報

单一製品・混合物の区別 混合物

成分情報

化学名	成分	含有量(%)	CAS No.	UN No.
粘土	シリカ・アルミナ等	73-75	1332-58-7	非該当
石油系炭化水素(*1)	潤滑油基油	14-16	101316-71-6	非該当
ワックス(*2)	固体パラфин・鉱物油	8-11	63231-60-7	非該当
ステアリン酸	脂肪酸	0-3	61790-38-3	非該当

\* 1 労働安全衛生法第 57 条 2 に定められた通知対象物(令別表 9-169 号鉛油)

\* 2 同上 171 号固形パラフィン(令別表 9-169 号鉛油)

PRTR 法 該当せず

#### 4. 危険有害性の要約

分類の名称 なし

危険有害性 石油系炭化水素: 高温で引火・燃焼する恐れがある。

ワックス・ステアリン酸: 燃えやすい固体

#### 5. 応急処置

眼に入った場合 通常の個体の場合は、直ちに大量の水で 15 分以上洗眼する。

粉塵は、眼球を傷つける恐れがあります。状況によっては医師の診断を受ける。溶融物の場合は、直ちに大量の水で 15 分以上冷やすと同時に洗浄し、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 大量の水で洗い流す。状況によっては医師の診断を受ける。

通常の取り扱いであれば、刺激性はありません。

溶融物の場合は、直ちに大量の水で冷やし、医師の診断を受ける。

吸入した場合 直ちに新鮮な空気のところへ運び出し、安静にし、保温に努める。

高濃度の粉塵の吸入は、気管等に刺激を与える恐れがあります。状況によっては医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 直ちに口内を水で洗浄し、牛乳などを飲ませたのち、吐き出させる。吐き出させることが困難な場合は、直ちに医師の診断を受ける。又、吐き出せた後も、医師の診断を受ける。

#### 6. 火災時の措置(石油系炭化水素・ワックス・ステアリン酸に対して)

消火剤 粉末消火器、炭酸ガス消火器が有効

消火方法 燃焼している火元に直接、上記消火剤を投与する。

#### 7. 漏出時の措置

- ・回収作業に従事する場合は、必ず呼吸器保護具、保護手袋、安全ゴーグルなどの保護具を着用する。
- ・溶融状態の場合は、放冷して固化したのち掃きとるかかきとる。
- ・漏出した製品が、河川、下水路、排水溝などへ流出しないよう、必ず容器に回収する。
- ・回収後は密閉し、有害産業廃棄物として処分する。

#### 8. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 眼に入ったり吸引しないように、保護手袋、安全ゴーグルなど、適切な保護具を着用する。取扱いの後は、手洗い、洗顔を行う。引火原因となる裸火、火花、高温物、過加熱を防ぐ。

貯蔵 高温多湿の保管場所を避けて、冷暗所に保管する。開封したものは、なるべく早く使い切ること。

## 9. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	設定値なし
許容濃度	石油系炭化水素(ミストとして) ACGIH TWA 5mg/m <sup>3</sup> ワックス(蒸気として) ACGIH TWA 2mg/m <sup>3</sup>
設備対策	十分な局所排気施設の設置、或いは設備の密閉を行うことが好ましい。 取扱い作業所近くに、安全シャワー、洗眼設備を設置
保護具	呼吸器用保護具、保護ゴーグル又は保護眼鏡、保護手袋(不浸透性)、保護マスク、保護衣などを着用する。

## 10. 物理的及び化学的性質

外観	黒褐色個体	
引火点(単体)	石油系炭化水素 ワックス ステアリン酸	200°C以上 約 320°C 175°C
発火点(単体)	ワックス	350°C以上
密度	約 1.7	
溶解度	水・熱水に不溶	

## 11. 安全性及び反応性

安定性	通常の取り扱い条件では安定
引火点	なし
発火点	なし
酸化性	なし
自己反応性	なし

## 12. 有害性情報

急性毒性(単体)	石油系炭化水素(ラット経口) LD50=5000mg/Kg(推定値) ワックス(ラット経口) LD50=2000mg/Kg(推定値) ステアリン酸(ラット経口) LD50=5000mg/Kg(推定値)
刺激性	データなし
Ames	データなし

## 13. 環境影響情報

分解性	有用なデータなし
蓄積性	データなし
魚毒性	データなし

## 14. 廃棄上の注意

外部業者に廃棄を委託する場合、都道府県などの許可を受けた産業廃棄物処理業者により、関連法規を厳守して適切に処理されるよう留意する。

## 15. 輸送上の注意

運搬に際しては、容器に破損のないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止措置を行う。

消防法、船舶安全法、航空法の定めるところに従う。

16. 適用法令

消防法(単体)	石油系炭化水素	第四類第四石油類
	ワックス・ステアリン酸	指定可燃物 可燃性固体類

労働安全衛生法(単体)

石油系炭化水素・ワックス 第 57 条 2

海洋汚染防止法・外国為替及び外貨貿易管理法・EU の法律には該当せず

17. その他の情報

危険、有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いに十分注意して下さい。

又、本「製品安全データシート」は、弊社製品をより安全にご使用いただくための注意事項などを簡潔にまとめたもので、通常の取り扱いを前提としたものです。従って、製品の規格仕様、品質、安全性を保証するものではありません。